



東京八王子プロバスク

創立 1995 年 10 月 18 日

2014～15年度テーマ

プロバスだよ

第234号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2015年5月14日発行

編集・発行：情報委員会

[参加して真に生き甲斐の持てるクラブ]

～先人の知恵を受け継ぎ、自分を出し切ることに徹しよう～

第 234 回例会

日 時：平成 27 年 4 月 9 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：60 名 欠席者 7 名 出席率 89.5%

(会員総数 69 名 休会 2 名)

会食とハッピーコイン披露

田中美代子例会委員長の合図で会食を始め、会食中に永井副会長から 11 名のハッピーコインが披露された。(4 ページに掲載)

開会 田中例会委員長の司会で開会、資料の確認。

1. 挨拶 土井会長

このところ天候不順で夏が来たと思ったら、冬に逆戻りというような天候です。皆様には充分健康に注意され、体調を崩さないようにしてください。

本日は、この例会のあと、生涯学習サロンがあります。話し手を務める会員の努力は大変なものがあるかと思しますので、会員の皆様のサポートをよろしく願いいたします。

また前日も申し上げましたが、このサロン創立の原点に立ちかえり、一般会員の質疑応答の場をできるだけ多く持てるようお願いいたします。

2. パースデーカード贈呈



土井会長から 5 名の会員に、池田会員の手作りによるパースデーカードが贈られた。

(写真左から内山雅之、熊田真瑜美、土井会長、佐々木研吾会員～池田ときえ、塩澤迪夫会員は欠席)

3. 卓話 美しい老いを迎えるために

土井 俊玄会員



日本人の寿命が延びて高齢化社会は、いよいよその度合いを増しているようです。私たちは誰でも美しく老いたいと願っているのですが、この事はまた、実現するのがとても困難なことでもあります。その困難を乗り越えて“愛される老人”になるためのお話が出来ればと思っています。

私たちは年老いた時にどうなるのだろうと思うのですが、たとえ醜くなったとしても、そこから目を背けてはいけません。老いを直視して、そこから良い方向に向かっていかなければならないと思うのです。

しかし、老いを直視するといっても、人はその年にならなければ、その年の人の事はわからないと言います。例えば、今 50 歳の人は 50 までの事はわかるけれども、60 歳や 80 歳の人の老いはわからないのです。しかし、わかる範囲で理解していく努力が大事かと思えます。

1750 年(寛延 3 年)美濃国に生まれ、1837 年(天保 8 年)まで 87 歳の天寿を全うした臨済宗の僧仙厓義梵(せんがいぎぼん)は、清泰寺の空印に師事し得度を受けた博多の聖福寺 123 世。書画、禅画を良くし、短い自讃を添え、海外にも紹介され評価されている。

この仙厓和尚が老いの姿を歌った「老人六歌撰」というのがありますのでご紹介します。

「皺がよる、ほくろが出ける、腰曲がる、頭が禿げる、髪白くなる、手は震う、足はよろつく、歯が抜ける、耳は聞こえず、目は疎くなる。」

身に装うは「頭巾、襟巻、杖、眼鏡、たんぽ、温石(懐炉の元)、尿瓶、孫の手」。さらに「生きてがる、死にとむながる、寂しがる、心は曲がる、慾深くな

る、くどくなる、気短になる、愚痴になる、出しゃばりたがる、世話を焼きたがる、又しても同じ話に、子を褒める、達者自慢」に人は嫌がる。

このように仙厓和尚は歌っていますが、また別のある人は、「老人は過去に生きる傾向がある。保守的になる。新しい事に適応できない。不安感に襲われる。孤独である。疑い深くなる」など、いろいろ心のあり方が指摘されています。

私の知っている、ある老いた女性はお金のことで、隣近所に大変な迷惑をかけたことがありました。「泥棒が入った。家の中のお金が無くなった」と寝静まった深夜に近所の家をたたき起こしたのです。

この例は少しばかり認知症になっていたということでしたが、老いると忘れっぽくなる、疑い深くなる、不信感の強まりなどによって、家庭でも老人ホームでも金銭にまつわるトラブルはあとを絶たないとはよく聞くとこです。哀しいけれども、これが老いの一つの表現、あるいは特徴でもあります。

ある有名なお医者さんが老人の「ボケ」について臨床的に深く研究された結果、ボケやすい人の特徴がわかったそうです。

それによると「ボケやすい人」……人の言い分を聞かない頑固な人、すぐに腹を立てる人、無趣味な人、人と友達になれない人、人が信じられずお金しか頼れない人、笑わない人……いずれも頭が固く、脳を活性化させないため、早く活性物質が無くなりやすいと見られているそうです。

その反対に「ボケにくい人」……本を読む人、新聞を読む人、もの忘れを気にしない人（さっぱりしている人）、きちんと話をする人、人の世話をする人、感動する人、生き甲斐を持っている人。

このように見てくると、「ボケにくい人」は人格的にも好ましいと言われている資質を持っている人のようですね。

4. 幹事報告 山口副幹事

本日武田幹事が欠席。幹事からの報告は特にない。5月17日に健康フェスタがスポーツアリーナで開催される。現在、各委員長を通じボランティア参加のご協力をお願いしている。5月の季節もいい時期なので、時間のある方は是非ご参加を。

5. 委員会報告

(1) 例会委員会

田中委員長

出席会員数の報告（前記のとおり）

(2) 情報委員会

河合委員長

プロバス日より第233号をお手元へお届けした。編集担当は池田ときえ委員。投稿は3人の会員のご協力を頂いた。来月号の投稿の手持ちが一つだけ。我こそはと思う方の投稿をお待ちしている。

(3) 会員委員会

岡本委員長

会員委員会はプロバス会員を集めるのが役割。良い人材を集められるよう、委員会としても頑張っている。しかし、時間と共に元気がなくなって来て、休みがちな方が増えてきている。70人という目標で頑張っているが、会員委員会だけではどうにもならない。会員の皆様方のご協力で、一人でも多くのプロバス会員をお願いしたい。

(4) 地域奉仕委員会

寺田委員長

本日学習サロンの第3週が始まります。準備のため例会の途中で退席する人がおりますが、ご容赦ください。

学習サロンの出席状況を報告しますと、プロバス会員の開講式出席者は66名中50名（出席率75%）、サロン第1週は55名（出席率83%）、第2週は49名（出席率74%）でした。事前に欠席連絡をされる方もおりますが、気になる点は、参加表明をしておいて連絡なしに欠席される方がおられることです。今後の事もありますので、欠席の場合は数日前に地域奉仕委員長に連絡を入れる様にしてください。

一般の方で開講式に参加表明された方の出席率は、参加表明をされていない方が参加されたため出席率100%を超えていますが、参加費を払った82名から見ると出席率は70%弱と云う感じでした。

4月23日は野外サロンになります。野外サロンでは名札を着用します。

6. 八王子「宇宙の学校」プロジェクト 下山リーダー

お手元に八王子「宇宙の学校」参加者募集の原稿コピーをお配りしました。これと同じものが、5月15日付けの市広報に掲載され、その頃、各小学校にチラシとして配られます。裏面にスケジュール、会場などが載っていますのでご覧下さい。

4月28日に実行委員会を開催し確認します。こうした準備のもとに、平成27年度の「宇宙の学校」がスタートします。

皆様には毎年、金銭的なご支援を頂きありがとうございます。又スタッフとして多くの方に労力的なご協力頂いています。今年もよろしくお願ひします。本日、スタッフの経験ある方や、お手伝い頂ける方々に、どのようなご協力を頂きたいか、書類にしてお配りしました。それぞれのご都合をお知らせください。本日または5月の例会で回収いたします。

今申し上げたお願ひの書類が回らなかった方でも、ご協力が頂ける方はお申し出ください。

7. 創立20周年記念事業報告 杉山準備委員長

クラブ創立20周年記念事業については、お陰さまで毎月開催されている準備委員会の中で、それぞれ担当の部門が鋭意準備を進行させております。

① 8月28日の「海上自衛隊東京音楽隊八王子公演鑑賞会」につきましては、本日お手許にお配りした入場整理券申込用紙で6月例会日までにお申し込みください。この後、担当部門の大高さんから詳細のご説明を致します。

② 「輝く宇宙八王子展」につきましては、JAXAからの全面的な後援を取り付け、内容の充実に向けて努力中でございます。

③ 講演会・記念式典・レセプションにつきましても10月18日の日程をめどに、それぞれの部門でご努力を頂いているところです。

④ 記念誌部門につきましては、本日、会員の顔写真を撮らせて頂いております。例会にご出席の皆さまは今日中にお済ませください。

3月末原稿締め切りの会員紹介ページに続き、会員投稿記事1,600字以内。締め切りは4月30日となっています。ご協力をお願い致します。なお、各委員長さんには、既にお願ひしてある委員会記事の取りまとめをお願い致します。

大高委員

本日は担当の立川会員が欠席なので、私が代って説明します。お手元へ資料を2枚お配りしてあります。8月28日の海上自衛隊の八王子公演は、プロバスクラブだけの主催の演奏会ではなく、自衛隊協力

会との共同開催であり、座席は800席だけの割り当て。参加者の一般公募はしない。皆さんのお知り合いや家族等で満席にさせていただきたい。

先ずは会員関係でどのくらいの参加希望があるかを事前に把握したい。その後で福島の被災者等の招待を考えたい。席を確保するので6月の例会までに希望する枚数を申し込んで欲しい。整理券の申し込みは責任を持って、万一欠席の出た場合には事前の連絡をお願いしたい。演奏会は満席が前提条件なので、ご協力を頂きたい。

当日用に整理券を発行して、12:30分から着席券と引き換える。座席は到着順に前方から詰めていきたい。なお、いわき中学校への図書文庫に本を贈る計画がある。6月に申し込む際、1コインのチャリティーをお願いしたい。細部についてはまた5月の例会で申し上げる。

8. 同好会報告

(1) ゴルフ同好会

米林会員

多摩地区合同コンペは5月26日に決まった。場所は相武CC。同好会メンバーにはご案内してあるが、出欠の連絡を4月末までをお願いしたい。八王子単独のコンペについては4月28日に実施される。

(2) 俳句同好会

飯田会員

俳句同好会の飯田です。4月6日、好天に恵まれて、飯田竜太・蛇笏の旧邸「山廬」で吟行会を実施した。「山廬」は一般公開されていないが、友人と言うことで内部まで案内していただいた。

別な友人が経営する「花桃園」は見事な花盛り。ここでも桃花に堪能する。毎回「句作」ならぬ「苦作」に悩んでいるが、知的快樂は何物にも代えがたいものがある。詳細は池田ときえ会員の投稿で報告の予定。

(3) カラオケ同好会

杉山会員

4月例会は27日(月)に行いますが、今回は、カラオケ館の新装開店に伴う「プレオープンへ招待会」でございますので、11名限定でご案内状をお配りいたしました。選考基準は、昨年1年間の出席率順とさせていただきます。ボケ防止にもってこいのカラオケ、ご招待ですので食事、飲み物代は無料でございます。

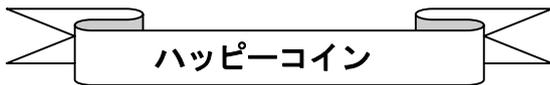
9. プロバス賛歌斉唱

10. 閉会 永井副会長



このところ高齢化社会に関連する話題が続いています。八王子プロバスクラブがどの程度高齢化しているか、データーを示してみます。

今年末で80歳以上の方が27名になります。来年末には35名となり、このまま推移しますと、過半数が80歳以上ということになります。ということで、会員委員会の皆様も懸命に増員を図っています。今日の卓話は「美しく老いを迎えるために」でした。来月の例会で、美しく生きてこられた皆様とお会いできるのを楽しみに、本日は閉会と致します。



◆ご迷惑をおかけいたしました。3か月ぶりに復帰できました。 内山 雅之

◆家内の喜寿、私の傘寿の祝いのために、ドイツから娘家族と夫（ドイツ人）のご両親までもが来てくれて、楽しい会を持つことが出来ました。感謝です。

岩島 寛

◆母校の大学生120名を対象に「技術革新学」という講義シリーズの一人として頼まれ話をしてきましたが、20歳前後の若者が80歳にもなる年寄の話を居眠りもせず熱心に聴いてくれて感謝です。

岩島 寛

◆大串ファミリーの祝いごと。私80歳、長女の婿60歳、三女の婿50歳、孫一人大学入学、もう一人高校入学です。

大串 延子

◆3年前に傘寿に達しましたが、また馬齢を加えました。修行が足りず生臭いままですが、引き続きよろしくをお願いします。

佐々木研吾

◆明治45年生まれ之母が、102歳で逝きました。孫子たちの合唱「春のうららの隅田川〜」に送られて、明るく穏やかに旅立ちました。

山形 忠顯

◆Vリーグ女子でNECが10年振りに優勝しました。“久方の女子バレーV春の快”

馬場 征彦

◆男声合唱をはじめて60周年になります。記念に7月20日オリンパスホールでの東京交響楽団の「モーツァルトのレクイエム」にエントリー。締切りぎりぎりハッピー。

八木 啓充

◆「国産顕微鏡100年展」に行ってきました。開発に携わった顕微鏡も展示されていました。懐かしかったですね〜！

永井 昌平

◆来週「パリ」へ美術館めぐりの旅に行つて来ます。野外サロンに間に合うように帰つてくる予定。

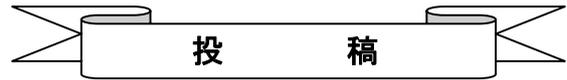
野口 浩平

◆富士森公園の桜、今年も素敵な花見が出来ました。

山口 三郎

◆今年花見のチャンスに恵まれ、桜と桃の素晴らしい日本の春を満喫させてもらっています。加えて来週は吉野の千本桜を観に行つて来ます。

田中 信昭



シニアダンディーズ 私考

杉山 友一



平均年齢が今年もう78歳になる素人男声合唱団のシニアダンディーズが、年月を経て妙な存在になってきましたね。アンサンブルの実力はまだまだ微笑ましいレベルでしょうが、この集団がユニホームを着て舞台に立つとかなり立派です。一昨年の秋に八王子市の議場コンサートへの出演で気を良くして、昨年の秋には「八王子市民防犯のつどい」にいちょうホール（小ホール）に招待され、出演したらこれが大盛況大評判。警視庁管内に102の警察署がある中で、第九方面本部を代表して八王子が優等賞を獲得してしまいました。大きな社会奉仕をした結果になりました。

そんなシニアダンディーズの居心地は、AKB48の対岸に位置するオールドシニア故にXYZ15と喩えています。折に触れ土井会長の関係先でもある市内の老健施設なども慰問させてもらっています。

シニアダンディーズの活動が、細やかながらもプロバスクラブの広告塔の役目を果たしつつ、地域と



溶け合うことが出来れば最高でしょう。本年も又、5月10日に八王子市の中核市祝賀の集まりにお招き頂いた後も、いくつかの出番を得て、暮れの東日本プロバス交流会（企画中）にも参加させて頂いて1年を終える予定です。

さて、そんなこんなシニア合唱団ですが、その一切の仕切りは年齢不詳、八面六臂の立川会員の所管で、直接の音楽指導はNHK合唱コンクールで毎年のように金賞に輝く日野市立七生緑小学校を率いる畑野かん奈さんです。その指導ぶりは、さすが小学生を鍛え上げているだけあって、一つ一つを噛んで砕いて、オールドシニアを束ねて大昔の童心に戻してしまいます。そして又、時たまオペラ歌手の田中三佐代プロが顔を見せてくれますが、ときに厳しい目で声楽の基本の基を繰り返し吹き込まれます。この時ばかりはシニア各位の現役時代のプロフェッショナル、その輝かしい名誉も功績もそれはもはや別世界の話で、思えばそのコントラストが如何にも微笑ましくも可笑しく面白い光景です。

ともあれ、シニアダンディーズは女将三羽鳥の管理下にあり、女性の重用社会を標榜するアベノミクスをとくに先取りしています。毎週月曜日の午後の2時間、土井会長の興岳寺檀徒室をお借りしての練習教室ですが、つまるところはシニアの面々“損して得取れ、天真爛漫童心に還る”。そんなひと時を糧として健康長寿の宝くじを引き当てるかもしれません。

「甲斐・桃の里を訪ねて」

俳句同好会・吟行会報告

平成27年4月6日、暖かな日差しの一、参加者8名で甲斐の春を楽しんできました。石和駅からのマイクロバスは、満開の桜や桃、梨の花の中を走ります。広い空、南アルプスの白い峰、甲府盆地は一面のピンク色に染まり桃源郷さながら。

まずは俳句の聖地である「山廬」へ。俳人飯田蛇笏・龍太父子の生家で、現在は龍太氏のご子息秀實氏が、お住まいとして生活しながら記念館の維持・運営に努めておられます。本来は非公開ですが、飯田会員のご尽力で拝見することができました。

地元の名家としての広大な敷地、年古りた赤松が大枝を伸ばす前庭、黒光りする座敷など、厳かながらなつかしい佇まいです。ご当主秀實氏のご案内で各座敷の設えや由来、俳人の暮らしぶりやご家族のご苦勞などを興味深く伺いました。

色紙に書かれた俳句の貼り混ぜ屏風や額・軸の数々、お二人が使っていた机や筆記具、辞書などのお宝も拝見しました。作家の井伏鱒二氏と長年親しいお付き合いがあったこと、深沢七郎氏もお住まいが近く、活躍時期が同じなので交流があった、など印象深く意外なお話もありました。

その後、後山と呼ばれている裏山を散策。山口素堂の有名な「目には青葉山ほととぎす初鯉」の句碑があります。山頂からは甲府盆地が見渡せます。お隣の桃の畑では受粉作業の最中、長い毛ばたきのようなもので枝々の花を撫でていました。重労働のようです。

お楽しみの昼食は、多恵子夫人のお手になるビーフシチューでワインをたっぷり使った贅沢な一品です。箸休めの山菜、サラダとすべて地元の食材との説明に一同心して味わいました。ごちそうさまでした。館長飯田ご夫妻の温かいおもてなしに感謝、これからも四季折々の「山廬」を訪ねたいと思います。

次に一宮町の「まるきた花桃園」へ向かいました。4月の兼題である「桃の花」の句作の取材でもあります。みなさん観光気分を少し引き締めたようです。

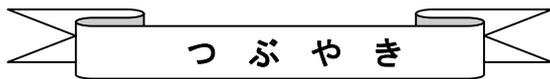
中国では「桃は観て半分、食べて半分」と言うそうで、桃の花の美しさをもっと広めたいという園主



の有賀氏は、食用の桃の栽培と共に観賞用の花桃に力を入れておられます。

広い畑の一角、7千平米の敷地には国内50種類、国外25種類の花桃500本があり、紅、白、混ざり、立性、矮性、枝垂れと様々な花桃が今を盛りと咲き乱れていました。名札には「京舞妓」「源平」「残雪枝垂れ」「京更紗」など雅な名前が並んでいます。毎年NHKが取材に来るといふ桃の並木で記念撮影。いい句ができますように。

喫茶室で一息ついでのティータイム。惜しげもなく伐って下さった花桃の枝を抱えて帰路につきました。有賀氏の名ガイドのおかげで、「観て半分」の桃の知識が増えました。夏には「食べて半分」の後半を楽しみにまた伺いたいものです。ありがとうございました。同行の某氏曰く「ひたすら感動で、俳句なんて作れなかった!」と。池田ときえ 記



4月23日は雲一つない快晴に恵まれた野外サロンの一日。私は子供の頃、慰問に横須賀を訪れている。海軍士官だった叔父の腕に抱き上げられて、やたら髭面が痛かったことだけを覚えている。

あれから70年余、静かな佇まいの街に、少しの違和感もなく軍港が共存している。ふと、沖縄の基地移設の問題が頭を過った。最新鋭艦が停泊する港の中を、遊覧船が解説付きでクルージングする。これを平和な姿と言うのだろうか。

日露戦争の立役者だった戦艦「三笠」が記念艦として保存・公開されている。

艦内を見学していると、艦の案内人こんな説明をした。「日露海戦の双方の戦力の差は10対1で連合艦隊の方が勝っていた。

それだけの準備をし、優秀な指揮官のもとで大勝利を収めた」と解説する。

私は皮肉な質問をぶっつけてみた。70年前の戦争では「米国の10分の1にも満たない戦力で挑んだのはなぜ」と。案内人の答えは明快だった。「残りの10分の9を精神力に頼った。だから負けた」と。

私たちは悲惨な歴史の中から、学ぶべき大切なものを学んできているのだろうか。(k・k)

俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～4月の句会から

4月6日の吟行会は好天に恵まれ、俳人蛇笏・龍太の縁の地「山廬」と花桃の咲き乱れる甲斐路を辿った。

一枝に丹誠込めし桃の花 田中 信昭

桃の甘い実を太らせるには剪定が命。一枝ごとに真剣勝負の毎日。中七にその労苦が偲ばれる。

春寒や医院に急ぐ親子みて 飯田富美子

今日の最高点句。さりげなく日常を詠んで秀句。

俳句には難しい言葉遣いは不要の見本。

拉致の国また肩すかし遠き春 東山 榮

元気なうちに親子、兄弟の再会が実現して欲しい。それにしても訳のわからないのが彼の国。

掴まり立ち見つめる外に風光る 馬場 征彦

可愛らしい光景。季語の幹旋がいい。秀句。子どもは温かい目に見守られて育ってゆく。

沖縄よ独立せよと祈る春 渋谷 文雄

「なぜ沖縄ばかりが……」誰しもが感じる疑問。我々自身の課題として考えるべき基地の軛。

ピリーリリ鳩歓喜の二長調 山形 忠顕

豊かな音楽的素養が下地。鳥の鳴き声を「歓喜の二長調」と表現する。景を旋律で表現した一句。

花冷えや華やぎしばし閉じ込めり 石田 文彦

季節の移ろい。行きつ戻りつの戸惑いがうまく表現できた。俳句らしい俳句が生まれた。

キラキラ星ばかり弾いてる春休み 池田ときえ

今日もピアノの音が聞こえて来る。一生懸命練習しているのであろう。作者の温かい心が見える。

桃花笑む集ふ句友の華やげり 河合 和郎

同好会の桃の里での吟行会。私は風邪で参加できなかったが、作品からはこんな雰囲気が感じられた。

編集後記：初めての挑戦でプロバス便りの編集を経験し、多くの会員の皆様にご協力を頂き有難うございました。今月の卓話のように、美しい老いを迎える難しさも実感したひと時でもありました。

編集担当： 矢島一雄